

2 学習指導や生徒指導の充実を図る取組の改善・充実

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の取組 滝川市立江陵中学校区

効果的な取組とするためのポイント

- ・中学校区共通の家庭学習の手引の作成及び中学校区一斉の家庭学習週間の設定
- ・長期休業を活用した中学校区の中学生による小学生の学習支援

取組の実際

- ① 中学校区共通の家庭学習の手引「まなびのさかみち」の更新
 - ・各教科の学習内容例や、各学年の学習時間の目安、保護者の関わり方等について、加配教員が中心となって内容を更新
- ② 中学校の定期考査期間に合わせた、年間4回の校区一斉家庭学習週間を設定
 - ・加配教員が中心となり、家庭学習週間のチラシを作成し、中学校区の各家庭に配付
 - ・チラシの裏面には、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査の分析結果を掲載し、家庭学習習慣定着の重要性について家庭に啓発
- ③ 長期休業中における中学校区の中学生による小学生の学習支援
 - ・中学校生徒会によるボランティア活動の一環として小学生への学習サポートを実施し（上写真）、異校種間交流を促進



成果（○）と課題（●）

- 小・中学校による連携した取組により、児童生徒や保護者の学習に対する意識を高めることができた。
- 学び方の共通化を図り、中学校での学びをスムーズにしていくことが大切なことから、中学校の学習スタイルを小学校にも取り入れるなど、小学校と連携して学習指導の充実を図っていく必要がある。

学年相互の関連を明確にし、小・中学校の9年間を見通した指導

江別市立江別第二中学校区

効果的な取組とするためのポイント

小中ブロック研修会の教科部会において、児童生徒の学習状況の実態について把握するとともに、系統性を踏まえた指導の工夫について、共通理解を図った。

取組の実際

加配教員が中心となり、9年間を見通した教科指導に向けて、小・中学校の学習内容の違いや系統性、各教科の特性を踏まえ、重点的に指導するポイントを位置付けた。

また、小中ブロック研修会（右写真）において、各学年の指導内容を確認するとともに、小学校ではどの内容に課題があったのか、中学校ではどのように補完するべきかなどを理解した上で、見通しをもった教科指導を行うことができた。



成果（○）と課題（●）

- 教職員が小・中学校の学習内容や児童生徒の実態を把握したことにより、手立てを明確にした授業を進めることができた。
- 重点指導のポイントについては、各学年により課題が異なるため、小・中学校の各教科の教職員で定期的に協議を行い、連携して重点指導のポイントを見直す必要がある。

学年相互の関連を明確にし、小・中学校の9年間を見通した指導の取組

小樽市立北陵中学校区

効果的な取組とするためのポイント

- ・「9年間の単元配列表」の活用を通して、指導の系統性・連続性を強化した学習指導を行うこと
- ・小・中学校の教職員を相互に派遣する「相互乗り入れ授業」を実施すること

取組の実際

算数・数学において「9年間の単元配列表」(右図)を作成した。小・中学校9年間の単元を時系列に沿って一覧表にし、加配教員を中心に全国学力・学習状況調査の結果を分析した結果等を踏まえて、重点単元や繰り返し指導するポイント、学年相互の関連を明確にした。

また、中学校教員が小学校第5・6学年の算数でTTを週1回行うとともに、小学校教員が中学校第1学年の数学学習態度別授業でTTを週1回行う「相互乗り入れ授業」を通年で実施した。

●3校全体で組織的・継続的に指導する重点単元 … 指導時数を増やして繰り返し指導
正答率の低い内容に関わりの深い単元 その他関連

		4月			5月			
		①	②	③	④	⑤	⑥	
小学校	1年生	なかよしあつまれ 風船はたがるかな		1 いくつかな 10までの数字のよみ、書き	2 なんばん め	3 いまなんじ		
	2年生	1 表とグラフ 表や○の絵グラフ	2 時とく と時間	3 たし算 28+17	4 ひき算 34-18			
	3年生	1 かけ算のきまり 7×0, 20×4=4×20	2 時ごとと時間 10時50分の20分後	3 たし算とひき算 318+225, 3972-1368, 2桁計算				
	4年生	1 大きな数 億、兆、和差積	2 わり算の筆算 85÷3, 商	3 2つの量の変わり方 比例, 80×○=△	4 小数の 80×0.6,			
中学校	5年生	1 整数と 小数	2 体積 1cm ³ /m ³ , 内のり、容積	3 2つの量の変わり方 比例, 80×○=△	4 小数の 80×0.6,			
	6年生	1 文字を使った式 文字a, b, c	2 分数と整数のかけ算 わり算 7/12×4	3 対称な図形 線対称, 点対称				
1年生	第1章 素因数分解 素数, 30=2×3×5				第1章 正負の数 絶対値, 項, 乗法, 四則, (-7)+(+3)			

成果 (○) と課題 (●)

- 定着に課題のある学習内容や学年相互の関連を明確にした単元デザインを行うことにより、小・中学校9年間の系統性・連続性を強化した学習指導につながった。相互乗り入れ指導では、年度始めの4月には前第6学年の学級担任が中学校へのTTに入るなど、入学直後のつまずきに配慮した取組を行うことができた。
- 小学校低学年・中学年の教職員について、小中一貫した指導の意識を更に高める必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制

登別市立鷺別中学校区

効果的な取組とするためのポイント

進学後の学習指導や生徒指導に係る児童の不安を軽減できるように、中学校が、小学校第6学年児童の体験入学の機会を増やし、第1回は授業参観と部活動見学、第2回は中学校における特別授業を実施した。

取組の実際

加配教員は第1学年担任として、授業公開及び児童に対する説明等を行った。

【第1回体験入学】(10月下旬)

- **中学校第1学年の授業参観**
- 学校行事、生徒会行事の説明
- 学校生活のきまりの説明
- 全ての部活動見学

【第2回体験入学】(11月下旬)

- **理科、外国語の特別授業**
(右写真)
- 家庭学習の手引きを配付

【体験入学の感想】

部活動を見学していた時、中学生がとてもかっこよく見え、どの部活も楽しそうだなと思った。授業も分かりやすく、今から中学校入学が楽しみだ。



成果 (○) と課題 (●)

- 体験入学の回数が増やしたことにより、進学に係る児童の緊張や不安を軽減することができた。
- 児童に「家庭学習の手引き」を配付したことによる、成果及び課題を明らかにするため、児童の感想や活用状況を検証し、結果を踏まえ改善する必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制 様似町立様似中学校区

効果的な取組とするためのポイント

施設分離型の小中一貫教育として、定期的に小学校第6学年の児童が中学校に登校する「6年生登校」を行い、中学校生活に慣れるとともに、教科担任制の移行を円滑に進め、中学校進学への不安感の緩和を図った。

取組の実際

年間を通じて、小学校第6学年の児童が定期的に中学校に登校し、中学校の教職員による、算数科、音楽科、体育科、外国語科の乗り入れ授業を行った。(右写真)

実施に当たり、小・中学校9年間の教科指導の系統性、学習規律及び授業の進め方について、加配教員が中心となり、小・中学校の教職員で共通理解を図り、指導内容や指導方法について系統性を意識し、小・中学校の9年間を見通した、児童への指導ができる体制づくりを構築した。



この取組により、児童が中学校の学習環境に慣れ、中学校進学への不安の緩和が図られた。

成果(○)と課題(●)

- 今年度、小・中学校9年間の学習指導の系統性を意識したことにより、児童が不安感なく乗り入れ授業を受ける様子が見られるとともに、小学校の教職員が、これまで以上に、中学校進学に向け、系統性を意識した授業改善や学習規律の指導を行うことができるようになった。
- 「6年生登校」の際、乗り入れ授業を特定の教科のみで行っていることから、中学校入学後の生活に近づけるため、全教科で乗り入れ授業を行うなど、年間指導計画を改善する必要がある。

小・中学校間での学習規律、生活規律に関する一貫した取組

函館市立巴中学校区

効果的な取組とするためのポイント

生活規律について推進地域全体で情報共有を図ることにより、統一して取り組む内容の検討を図るとともに、学力向上に向け、「携帯・スマホ・ゲーム機利用制限週間」を設定するなど、小・中学校が連携した生活及び学習習慣の確立を図る。

取組の実際

生活規律について、各学校の課題から共通して高めたい内容を検討し、「巴中学校区小中連携共通実践事項」(右図)を各学校に示した。

携帯電話、スマートフォン及びゲーム機について、利用時間を決めることで規則正しい生活リズムの確立と、家庭学習に取り組みやすい環境づくりを家庭と連携して行った。

巴中校区小中連携共通実践事項	
巴中学校中1チャップ未成年防止事業協議会では、目標を「生徒指導上の課題を小・中学校で共有し、解決を図る」として、小・中学校の連携体制を構築し、不登校児童生徒数の減少と生徒指導上の課題を解決するために研鑽を深めてきました。	
各学校の現状を交流し、全国学力・学習状況調査結果を踏まえた上で、巴中学校区の児童生徒のよいたとところ、課題となるところが浮かび上がってきました。	
その中で以下の3点を共有化し、次年度巴中学校区で実践してみようとなりました。各学校なり実践方法や児童生徒発達段階に応じて取り組んでいただければと思います。	
時間を守る	
現状(課題) ・毎日の生活リズムが確立していない児童生徒 ・実践する児童生徒がいる。	教師(目標) ・授業を定時に始め、定時に終わるなど日課 ・実践の教育活動を心がける。

成果(○)と課題(●)

- 加配教員を中心に、推進地域全体で「巴中学校区小中連携共通実践事項」を検討したことにより、各学校の課題を踏まえた共通実践を推進することができた。
- 各学校の取組状況を定期的に把握するため、ICTを活用した会議等を設定するとともに、実施に向けた環境及び体制整備をさらに進める必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制 厚沢部町立厚沢部中学校区

効果的な取組とするためのポイント

小学校、中学校それぞれが相互に授業参観し、協議することで校種間の指導方法や指導観の差異を解消する。

取組の実際

- ・小学校教員による中学校授業視察（6月）及び中学校教員による小学校授業視察（12月）
- ・授業視察後は参観結果を踏まえての**生徒指導実態交流を実施**（右写真）
- ・給食指導等具体的内容を交流



【中学校授業視察と交流】



【小学校授業視察と交流】

成果（○）と課題（●）

- 授業視察を交えての指導交流を実施したことにより、小中学校間の指導観の違いを認識し、共有できた。
- 児童生徒への指導方法、指導観に差異があるため、今後も継続して交流して指導観を共有する必要がある。

小・中学校間での家庭学習（予習や復習、宿題等）における内容や方法についての連携 旭川市立光陽中学校区

効果的な取組とするためのポイント

学習規律の設定、家庭学習の習慣化に向けた取組、全国学力・学習状況調査の結果分析と交流及び今後の方策の提案など、家庭学習の定着を含めた望ましい学習・生活習慣の確立に向けて小・中学校が一体となった取組を推進する。

取組の実際

1 学習規律の設定

推進地域の重点目標、3校の学習規律の比較、アクティブラーニングの考え方、ICTの適切な使い方等を考慮しながら、3校で統一した学習規律を設定した。

2 全国学力・学習状況調査の結果分析の交流と今後の方策の提案

加配教員を中心に、3校の全国学力・学習状況調査の結果分析を交流し、地域全体の傾向を把握したり、学力向上に資する方策を提案したりすることができた。

3 家庭学習の習慣化に向けた取組

各校の家庭学習の手引きを見直しつつ、旭川市の「学習・生活習慣確立月間」の取組を推進した。また中学校では「学び設計シート」等を活用して家庭学習の習慣化を図った。

光陽中学校区の子どもの学び方

授業の始まり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休み時間の間に次の授業の準備をすませます。 ○ チャイムが鳴り、よい姿勢と元気なあいさつとともに授業を開始します。
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の「課題」をしっかり確認します。 ○ 正しい姿勢で学習し、集中して話す人の言葉を聞きます。 ○ はっきりとした声ですすんで発表します。 ○ 自分の考えとくらべながら人の発表を聞きます。 ○ 板書されたことや自分の考えなどをしっかりと書きます。 ○ きまりを守りながらタブレットを使います。
授業の終わり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の「まとめ」をしっかり確認します。 ○ 授業で学習したことは、家庭学習で必ずふりかえります。

成果（○）と課題（●）

- 上記の取組を推進したことにより、重点目標の達成状況を把握する保護者アンケートにおいて、昨年度と比較して「望ましい学習習慣が身に付いてきた」や「学習内容が身に付いてきた」の項目で上昇が見られた。
- 家庭学習を含めた基礎学力の定着に向けた望ましい学習・生活習慣の確立に向けて、3校の全国学力・学習状況調査の結果分析を基にして交流を深め、実情に則した推進地域としての家庭学習の手引きや生活のきまりを策定する必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制 鷹栖町立鷹栖中学校区

効果的な取組とするためのポイント

小・中学校が連携して学習指導の方法や教師と児童生徒の関わり方を見直すことができるよう、「学習と向き合うことができる」、「苦手、弱点を克服できる」という2本の柱の下、鷹栖町の児童生徒の課題を明確にし、その改善に向けた取組を行った。

取組の実際

○ アンケートの実施と課題の改善に向けた取組

加配教員が中心となり、小・中学校の教員を対象にアンケートを実施し、鷹栖町の児童生徒の課題として、「①話を集中して聞くことができない」、「②自分の考えを伝えることが苦手」という2点が明らかになった。そこで、上図に示した取組を小・中学校の教員で意識しながら、日常の実践を行った。

① 「話を集中して聞くことができない」について

- ・聞くことを意識させ、児童・生徒の準備ができるまで待つ
- ・指示は短く、伝わるまで繰り返し伝えることも
- ・言葉だけではなく視覚的な理解を促す

② 「自分の考えを伝えることができない」について

- ・自分の考えを書いたり、言葉で伝えるような活動を通して理解が深まる授業
- ・視覚的な理解を促すなど、相手に伝わりやすい表現の工夫

成果（○）と課題（●）

- 児童生徒の課題を明確にし、改善に向けた取組の共通理解を図ったことにより、小・中学校の全教員で取組を進めることができた。
- 中学校の学習に対する児童の不安を解消するため、今後は出前授業等を行うなど、学習指導における学校間連携を一層推進する必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制 羽幌町立羽幌中学校区

効果的な取組とするためのポイント

羽幌町教育研究協議会で、9年間を見通した「生きる力」の育成を図る研究主題を設定し、授業参観や乗り入れ授業等を実施することにより、小・中連携の充実を図っている。

取組の実際

羽幌町教育研究協議会の研究主題「9年間を見通した『生きる力』の育成を図る手立ての工夫」に基づいた取組について、加配教員を中心に前年度の取組の評価と改善を行い、各研究委員会で連携を意識した活動を実施した。



中学校での学校評価アンケート（教職員）では「学習指導について小学校との連携を意識して指導に当たっている」の項目について、肯定的評価が30%から52%へ22ポイント増加した。

【国語】

9年間を見通したノート指導とその改善

【外国語・体育】

中学校教員による乗り入れ授業の実施
(右写真)

【算・数、理科】

系統性を意識した算数と理科での授業参観

【社会】

小学校副読本を活用した小中連携

成果（○）と課題（●）

- 小・中連携を意識した研究主題に基づく各委員会の取組により、教職員の意識の向上が見られた。
- 「ICT活用」や「総合的な学習の時間」など現在の課題に対して9年間を見通して系統的に推進していくため、連携を図りやすい委員会体制に再編する必要がある。

小・中学校間での学習状況や生活状況等の引継ぎの工夫改善

枝幸町立枝幸中学校区

効果的な取組とするためのポイント

道教委の資料を参考に作成した「安心をはぐくむ枝中引継シート」や、「Q-U」及び各種調査結果等の客観的指標を明記することで、多面的に児童生徒理解を行い、受入体制を構築する。

取組の実際

児童氏名												記入者名
生年月日												
学習	漢字数	5サガ①	5サガ②	5サガ③	聞く	話す	読む	書く	計算	推論		
	国語											
	算数											
対人関係	HyperQUプロット	学習進捗指数										特記事項【いじめたり・いじめられた経験、トラブル等】
	4年											
	5年											
	6年											

加配教員が中心となり、推進地域内の小学校と協働し、道教委の資料を参考にした「安心をはぐくむ枝中引継シート」（左図）を作成した。

引継シートには、「Q-U」や各種学力調査等の結果、学習面、行動面、対人関係等のチェックリストを設け、加配教員と小学校教員の対面によるきめ細かな引継ぎを実施した。

成果（○）と課題（●）

- 引継シートに客観的指標を取り入れたことにより、児童理解が深まり、引継ぎの内容が充実した。
- 中学校入学後のフォローアップのため、小・中学校間で情報交流する機会を位置付ける必要がある。

小・中学校間での学習規律、生活規律の改善に関する一貫した取組

遠軽町立遠軽中学校区

効果的な取組とするためのポイント

小・中学校間にある様々なギャップを、緩やかに「つなぐ」ことを推進地域のテーマとし、日常の生活指導を行っていく上でのスローガンを設定した。設定したスローガンを踏まえ、小・中学校で学習規律の一部や生活規律を統一し、3校の全教職員が共通理解の下で生活指導を行うことにより、中学校入学時における学校不適應を未然に防止するとともに、小・中学校の円滑な接続を図っている。

取組の実際

三つの「あ」～「あいさつ・あんぜん・あとしまつ」～

3校で共通した生活スタンダード「三つの『あ』」というスローガン（右図）について、各校で説明し、**教室掲示やスローガンを踏まえた学級活動**を行うなどして指導を行った。その結果、新入生が教室掲示された「三つの『あ』」を見て、「小学校のときのものと一緒にだ」「小学校の時によく話題に出ました」という意見が聞かれるなど、小・中学校間でのギャップを縮める一助となった。



遠軽中学校教育目標 ～未来を拓く～

遠軽中学校では、次の3つの「あ」を念頭だけでなく、教職員も意識し、行動することによって充実した中学校生活を送り、その後の自分自身の進路に力強く進む生徒を育成したいと考えています。具体的には、3項目の中にあるキーワードを意識づけさせ、望ましい行動規範を身につけさせたいと考えています。



成果（○）と課題（●）

- 推進地域の小・中学校で生活スタンダードのスローガンを揃え、共通のポスターを作成して指導したことにより、全教職員が共通した指導を円滑に行うことができた。また、生活規律を意識して行動する児童生徒が多くなった。
- より効果的な取組とするために、各校の実態に応じた詳細な指導事項を確認し、日常の指導を充実させる必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制 芽室町立芽室中学校区

効果的な取組とするためのポイント

中学校教諭が小学校の授業に継続的に参加し、教科指導や児童についての情報交換を積極的に行うことにより、小・中学校の円滑な接続を図った。

取組の実際

年60回、加配教員による円滑化訪問を中学校区の小学校2校に行った。加配教員が小学校学級担任と授業内容について確認し、TTとして児童の学習サポートを行ったり、中学校の学習とのつながりを児童に説明したりすることにより、児童の中学校での授業や中学校教諭に対する不安感の軽減を図った（右写真）。

また、授業後に加配教員と学級担任とで児童の様子や授業について短時間で交流することにより、小・中学校の相互理解を促進した。円滑化訪問の様子等については通信を配付し、中学校区全体の相互理解が図られるよう進めた。



成果（○）と課題（●）

- 円滑化訪問により、小学校第6学年が中学校教諭に親しみをもつことができた。また、教職員間で小中連携の推進が図られるとともに、乗り入れ授業等のスムーズな運営につながった。
- 小中連携の充実を今後も継続的に推進するために、学習面の円滑な接続や児童生徒理解に係る取組を校務分掌に位置付ける等、組織的な体制整備を行う必要がある。

小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制 厚岸町立太田中学校区

効果的な取組とするためのポイント

高学年の児童が中学校の授業の雰囲気になれることができるよう、「高学年・中学校1日登校」の回数を前年度より増やすとともに、中学校教員による乗り入れ授業を複数回行った。

取組の実際

高学年の児童が中学校生活や授業の具体的なイメージをもつことができるよう、「高学年・中学校1日登校」を年8回実施した。「高学年・中学校1日登校」では、学校見学や生徒との交流を実施し、児童の中学校生活への不安解消を図るとともに、9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした「9年間の学びの地図」（右図、一部抜粋）に基づき、中学校教員による乗り入れ授業を複数回行った。乗り入れ授業の具体的な日程・内容については、加配教員が小学校と連携を図り、調整した。

9年間の学びの地図

	小1	小2	小3	小4
行事	目標発表集会・長期休業体験発表会・学習発表会			
国語	これまでの学校生活を振り返り、楽しかったことやがんばったことを書き、進や先生、家の人に伝える姿。 登場人物の行動を具体的に想像しながら、伝えたいことを手紙として書き、発表する姿。	夏休みの出来事やしたことを順序を考えて友達に話す姿。 町探検で見たこと、わかったことなどを書き、伝える姿。	取材を通してわかったことを明確に記録し伝える姿。 厚岸町や太田地区の行事などについて調べ、図や写真、資料などを活用して発表する姿。	見学したり、調べたりがため、わかりやすく伝えるポスターセッションで、調べたことについて写真やグラフをもとに、筋道を立てて発表する姿。
社会	自信をもって「HASSIN。一歩」課題解決に向けて「HASSIN。一水色」自己決定して「HASSIN。一緑」相手意識を心掛けて「HASSIN。一ピンク」最適な方法で「HASSIN。一オレンジ」太田の一員として「HASSIN。一白（無地）」	厚岸町や太田地区の社会的事象について、地域の一員として、考えたことや選択・判断したことを文章で記述したり図表などに表したことを使って説明する姿	北海道の社会的事象について、地域の資料を関連付けながら選択・判断し、判断したことを記述したり図表などに表したことを使って説明する姿	北海道の社会的事象について、地域の資料を関連付けながら選択・判断し、判断したことを記述したり図表などに表したことを使って説明する姿
算数	割り算のひっ算を、素早く正確にでき、ひっ算の方法を説明できる姿。	数直線を活用し、問題解決の根拠としたり、説明したりできる姿。	分数の乗除を正確にできる姿。また、問題解決の筋道を説明できる姿。	割り算のひっ算を、素早くでき、ひっ算の方法を説明できる姿。

成果（○）と課題（●）

- 中学校教員の乗り入れ授業を行うことにより、児童の中学校生活への不安感を和らげることができた。
- 小・中学校が連携した指導方法、指導体制の工夫改善のため、「9年間の学びの地図」のさらなる改善を図る必要がある。

効果的な取組とするためのポイント

年間5回の小中合同研修会と年間4回の相互の授業参観を計画・実施し、児童生徒の実態を把握するとともに、児童生徒の姿や事例を基に「目指す子ども像」に迫るための取組について協議した。

取組の実際

加配教員が中学校区の研修部と連携し、小中合同研修会を複数回位置付け、学習指導では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について「学び合いの在り方」「ICTの効果的な活用」をテーマに協議し、生徒指導では「修学旅行のきまり」等についてきまりの作成過程や家庭への周知の方法などについて協議した。(右写真)



成果(○)と課題(●)

- 生徒指導の事案の交流において、小・中学校で対応の在り方が異なるなど多くの気づきがあったことにより、児童生徒理解について小・中学校の連携の必要性を感じることができた。
- 事例の交流が中心になっていたため、学習指導や生徒指導が適切かどうか検証する必要がある。